

あとがき

本シンポジウムは、法政大学学芸員課程設立 50 周年を記念して企画しました。昨年度から開催に向けて準備を進めてきました。段木元教授には資格課程年報（2013 年度）に「法政大学博物館学芸員課程の思い出」という玉稿をいただきました。私はベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学から依頼されて、日本の人材養成をテーマにしたシンポジウムの報告書に「日本の博物館学芸員の養成の課題～大学の学芸員養成課程より～」を寄稿しました。また、本学の学芸員養成関連科目を担当する先生方との FD（Faculty Development）ミーティングも行いました。これまでの担当者は、自分の担当科目だけを個別的にこなしていましたが、必修科目が増えた新カリキュラムにおいて、授業相互の確認や意見交換することにより、内容の重複や欠落などを補整する必要があると感じたからです。FD ミーティングに参加した先生方からも、「やって良かった」と好評でした。さらに、旧カリキュラム受講生を対象にしたアンケート調査も実施し、次年度（2014 年度）以降の新カリキュラム受講生との学習の習熟度の比較を行いました。本シンポジウムは、このような予備的な手続きを経て実現することができました。

今回のシンポジウムのテーマを「大学における学芸員養成を展望する～新カリキュラムの実践と検証を踏まえて～」としたのは、2012 年度から文部科学省がスタートさせた新カリキュラムに対して、事後評価をすることが必要ではないかと思ったからです。そのためにシンポジウムでは論点を大きく 3 つに整理することにしました。

- ① 本学の new カリキュラムの取り組みをどのように評価するか。
- ② 学芸員の高度職業人養成をする中で、大学院教育の果たす役割が大きいのではないだろうか。
- ③ 大学の養成課程は、学芸職の就職問題にどのように取り組んでいくか。

以上の具体的な意見交換の様子は本書に示した通りです。

主催者としては、new カリキュラムについて検証することができたことは、大きな成果でした。準備段階の活動も含めた、今回のシンポジウム全体の作業は一つの試みであり、今後も様々な角度・手法から検証することが必要でしょう。既に同じような試みを行われている方々もいらっしゃるかもしれませんが、もし未着手であるならば、実施することをおすすめします。博物館法が改正され、学芸員養成カリキュラムが改定されたばかりのこの時期だからこそ、日本の学芸員養成のあり方や就職状況を整理することは、大変重要なのではないのでしょうか。

本書が多くの関係者の皆様にご覧いただければ幸甚です。全国の大学で開講する学芸員養成の教育や情報交換などに少しでも役立つことになれば望外の喜びです。

末筆ながら、本シンポジウムの開催や本書の作成には多くの皆様のご協力をいただきました。

田中優子総長、段木一行元教授、笹川孝一教授、パネリストとしてご参加いただいた今野農、里見親幸、菅井薫、杉長敬治、田尻美和子、栗原祐司、鷹野光行、青木豊、矢島國雄の各氏。学務事務や資格課程の職員。以上の皆様に心より感謝申し上げます。

2015 年 3 月
編集責任者 金山喜昭